国連UNHCR協会

活動報告 2017

ANNUAL REPORT 2017

JAPAN FOR UNHCR
国連UNHCR協会

UNHCR（国連難民高等弁務官事務所）の活動を支えてくださっている日本の皆様に感謝申し上げます

再び立ち上がろうとする人々。紛争や迫害から逃れてきた人たちのその強さと勇気に、私は胸を打たれます。また、快く難民や国内避難民を受け入れ、安全な場所、教育の場、働くことのできる環境を用意してくれている人々、地域や国のことも決して忘れません。経済的な不安定さ、政治的な混乱、すぐそばに迫る暴力。この不確かな世界で、目を閉じ、すべてを閉ざしてしまいたいような気持ちにかられるかもしれません。しかし恐れや排他的な考え方は、何も生み出しません。その先には疎外と絶望しかありません。2017年、皆様からお寄せいただいた温かなご支援があったからこそ、UNHCRは難民の命を守る援助活動を続けることができました。家を追われた人々に仮設住居や食糧、水、毛布などの必要不可欠な救援物資、そして医療や教育などのサポートを届け、人としての権利を守り、彼らが再び安心できる場所を用意することができました。UNHCRはこれからも皆様とともに、故郷を追われた人々の痛みを分かち合い、彼らを支え、その未来に希望を用意するために、難民の保護と支援に取り組んでまいります。

© UNHCR/Roger Arnold

2017年9月、バングラデシュ・クトゥパロンキャンプで難民の子どもたちと言葉を交わすグランディ国連難民高等弁務官

第11代国連難民高等弁務官
フィリッポ・グランディ

世界の難民・国内避難民の問題は、2017年も深刻化の一途をたどりました。565万人のシリア難民の帰国の見通しがない中、同年8月以降ミャンマーのラカイン州からバングラデシュ南東部に約70万人のロヒンギャ難民が逃れてきました。何十キロもの道のりを、まさに身ひとつで逃れてきた難民の半数以上は子どもと女性です。母親と子どもだけの家庭も多く、孤児となった子どもは2万人もいます。先日、ロヒンギャ難民の暮らす難民キャンプを訪れて人々と言葉を交わす機会がありました。命がけの逃避行の中での辛い経験を涙ながらに語る難民の姿を見るとき、「この人たちを助けなければならない」という気持ちが強まりました。現地は大変な猛暑で、その中で多くのUNHCR職員が休日返上で活動にあたっていました。現地は間もなく雨期。大規模な土砂崩れや浸水が予想され、「被害を最小限にくいとめるために必要な資金が不足している」と職員たちは心配していました。UNHCRの活動は、世界の国境、紛争地帯などの最前線でも行われ、職員たちは難民・国内避難民の保護・支援にあたり、仮設住居や水、毛布などの救援物資、医療・教育サービスを届けています。この命を守る活動は、皆様のご支援があってこそ形になっています。2017年は皆様のご協力により、これまででもっとも多くの寄付金を日本からUNHCRの支援の現場に送ることができました。職員一同、皆様に深く感謝を申し上げます。数千万人にのぼる世界の難民・国内避難民の苦しみが今も続く中で、皆様のご支援は難民の命と尊厳を守るために大きな意味を持っています。どうぞ今後とも温かいご支援をお願い申し上げます。

特定非営利活動法人
国連UNHCR協会
理事長　滝澤 三郎

© 国連UNHCR協会

UNHCR　国連難民高等弁務官事務所（United Nations High Commissioner for Refugees）の略称で、1950年に設立された国連機関のひとつです。紛争や迫害により難民や避難民となった人を国際的に保護・支援し、難民問題の解決へ向けた活動を行っています。1954年、1981年にノーベル平和賞を受賞。スイス・ジュネーブに本部を置き、130か国で援助活動を行っています。

国連UNHCR協会　UNHCRの日本における公式支援窓口です。UNHCRの活動を支えるために、個人や企業・団体など、日本の民間の皆様に向けて広報・募金活動を行っています。2000年の設立以来、多くの民間の皆様よりご支援をいただいています。国連UNHCR協会は認定NPO法人です。ご寄付は税控除（税制優遇）の対象となります。

表紙写真：思い思いに絵を描いた手づくりの凧を手に、笑顔を見せるシリア難民の少女たち（ヨルダン・アズラック難民キャンプ）© 国連UNHCR協会

世界で活躍するUNHCRの日本人職員

from South Sudan ❶

小田代 佳子

UNHCR南スーダン・ブンジ地域事務所 保護官

2011年に独立を果たしたのも束の間、2013年に内戦が始まった南スーダン。この国で2015年から難民と国内避難民の援助活動に取り組んでいます。子どもの教育を受ける権利や女性の社会参加への働きかけ、高齢者や障がいを抱える人たちをはじめ、避難生活の中で苦しい立場に追いこまれやすい人々のケアを地域社会が担う環境づくりなど、多岐にわたる活動を行ってきました。その中で印象に残っているのは、過酷な状況下でも力強く生きる人々の姿と平和を望む強い気持ちです。この国の人々の権利と尊厳を守る活動に取り組めることを幸運に思います。

© UNHCR

© UNHCR

from Thailand ❷

久保 眞治

UNHCRタイ事務所 臨時代表
（バングラデシュ事務所 前代表）

2017年もミャンマーのラカイン州に暮らすロヒンギャの人々は想像を絶する暴力と迫害にさらされました。8月以降は3か月間で60万人以上が隣国バングラデシュに避難。UNHCRは支援物資の緊急空輸をはじめ、全組織の機動力をフルに発揮し「助かる命をなんとしても守る」活動を続けてきました。この事態に、ご寄付という具体的な形でご協力くださった皆様の真心と信頼、そしてご期待に心から感謝いたします。現職では、タイ政府への協力を通じて、ミャンマー難民の帰還支援や無国籍状態の人々への法的支援に従事しています。

from Syria ❸

石原 朋子

UNHCRシリア・カミシリ事務所 准保護官

シリア北東部で、ラッカやデリゾールからの国内避難民とイラク難民の援助活動を行っています。人々の人権や尊厳が守られるよう、紛争で離散した家族の再会や、戦闘の影響でトラウマを抱える人たちの心のケア、帰還を考える人々への情報提供や地雷回避教育など幅広い活動をしています。デリゾールでは今も戦闘が続き、過激派組織に長い間支配されたラッカには無数の地雷が埋められており被害が絶えません。8年目に入った紛争は未だ終わりが見えず、人々は一層の支援を必要としています。皆様のご支援を引き続きよろしくお願いいたします。

© UNHCR

© UNHCR

from Morocco ❹

三好 正規

UNHCRモロッコ事務所 保護官

モロッコでは、シリア難民の流入により過去3年で難民の数が4倍になるほどに急増しました。保護者のいない子ども、避難の道のりで人身売買や性的搾取の被害に遭った女性たち、刑罰の恐れから逃れてきたLGBTI（性的マイノリティ）の人々など、様々な背景の難民が、医療・教育・心理社会的ケア・職業訓練など、多岐にわたる支援を必要としています。政府や市民社会との連携拡大が急務となっており、難民保護に関する能力育成も多く実施しています。今後とも、日本の皆様のご理解とご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

from Bangladesh ❺

中柴 春乃

UNHCRバングラデシュ事務所
主席保護官

バングラデシュには現在90万人ほどのミャンマーからのロヒンギャ難民がいます。その内約70万人は昨年8月から半年という稀に見る短期間に避難してきました。UNHCRは、人道支援にかかわる諸機関と力を合わせて懸命の援助活動を行っております。ロヒンギャは保護してくれる国を持たない無国籍の民です。長い間人権侵害や差別、暴力にさらされてきました。ミャンマーで彼らが市民として認められ、安心してラカイン州の故郷に帰って暮らせる日が来るまで、その笑顔と希望の灯を絶やさないためには、皆様からのご支援が必要なのです。

© UNHCR

UNHCRの2017年緊急援助活動のハイライト

――皆様のご支援により、UNHCRは世界各地で
難民・国内避難民への援助活動に尽力することができました。

1月～4月 「子どもたちは呼吸器系の疾患を抱えているので、防寒支援がなければ、状況はもっとひどかったでしょう」(レバノンの難民居留地に避難しているシリア難民スザンネ)

シリアとその周辺国、ヨーロッパ

1月

UNHCRの防寒支援が命を守る

多くのシリア難民が身を寄せるシリア周辺国やヨーロッパでは零下を記録。UNHCRは各地で防寒支援を実施しました。その一環としてギリシャでは、防寒対策を施した仮設住居などを同国に留まる難民に用意。セルビアでは政府への協力を通じて、旧軍用施設を人々の滞在施設に改築。1月末までに570人を受け入れました。

セルビア・ベオグラード中央駅近くの廃墟ビルにいたアフガン難民の少年、アリ。外で火を焚き、暖をとっていた

南スーダン

2月

安全を求めて150万人以上が国外へ避難

南スーダンでは2013年末に紛争が再燃して以来、国外に逃れる人が後を絶たず、2017年2月、その数は150万人を突破。大多数は、避難の途中やその後の生活で危険にさらされやすい女性と子どもです。UNHCRは多くの南スーダン難民が逃れたウガンダへ緊急対応チームを派遣し援助活動を迅速に展開しました。

ウガンダ・ビディビディ居住地で寝息をたてる生後1か月の女の赤ちゃん。生まれてすぐ、母親に抱かれて避難してきた

シリア

3月

シリアの紛争、7年目に突入。追いつめられる人々

シリア国内で避難生活を送る人は630万人にのぼり、UNHCRは長引く紛争の中で逼迫した生活に直面している人々への援助活動を継続。「シリアは岐路にあります。平和や治安回復のために抜本的な対策がなされない限り、取り返しがつかない損傷が数世代にわたって続くことになるでしょう」(シリアを訪問したグランディ高等弁務官)

アレッポ郊外・ジブリーンの仮設住居で暮らす姉弟。紛争ですべてを失った多くの人は人道支援を頼りにするほかない

アフリカ東部、イエメン

4月

終わらない紛争。干ばつ被害、飢きんの脅威に直面

紛争が続くアフリカ東部やイエメンでは、多くの人が長期の避難生活を送る中、さらに干ばつや飢きんの脅威に見舞われる事態に。UNHCRは被害が2000万人以上におよんだナイジェリアや南スーダン、ソマリアなどで、パートナー団体と協力して避難民を保護するとともに、栄養補助食の供給、健康保健サービスの提供をしました。

終わりの見えない紛争と干ばつから7人の子どもの命を守るために、母国ソマリアから逃れてきたアイシャ

5月～8月 「破壊された家の再建サポートはまさに命綱でした。今ここで安心して暮らせます」（イラク国内の故郷に戻ったカーリッドと家族）

世界

5月

難民となり危機にさらされる子どもたち

内戦下の南スーダンから国外に逃れた子どもが100万人を突破。うち7万5000人は、子どもだけで危険な旅をしてきました。世界の難民の半数を占める子どもたちへの支援が求められている今、UNHCRは、避難途中で人身売買や性的搾取などの被害に遭いやすい子どもの保護やはぐれた家族との再会支援を各地で継続して行っています。

世界

6月

急速に深刻化の一途をたどる世界の難民危機

紛争や迫害により家を追われた難民・避難民の数がさらに増加し6560万人を超え、UNHCRが統計をとり始めて以来、最多に（出典：グローバル・トレンズ2016【年間統計報告書】）。3秒に1人が避難を強いられている計算になり、世界の難民危機が急速に深刻化し続けていることが明らかになりました。

イラク

7月

イラク・モスルに帰還する人々の生活を再建する支援

武装組織に支配されていたモスルが奪還され、避難を強いられていた人々が同地に帰還。UNHCRは、故郷で再び生活を立て直そうと奮闘する人々へのサポートを行いました。破壊された家屋の修繕キットの配布やもっとも苦しい立場に置かれた人たちへの現金給付による生活支援など、その形は多岐にわたります。

バングラデシュ

8月

武力衝突によりロヒンギャ難民が急増

ミャンマー東部で少数民族ロヒンギャへの攻撃が明らかになり、何十万人もの人が隣国バングラデシュに流入。この緊急事態に際し、UNHCRは身ひとつで逃れてきた人々に仮設住居や毛布、ビニールシートなどの救援物資を配布するとともに、水や医療、衛生保健サービスを提供するなど、命を守る緊急援助活動を展開。

© UNHCR/Ola Kabala

シリア国内の共同仮設住居で避難生活を送る兄妹。苦しい日々の中でも助け合って生きている様子がわかる

© UNHCR/Roger Arnold

日本では想像しがたいが、ただ安全を求めて何日も野山を歩き、時に海を越える危険な旅をする人が増え続けている

© UNHCR/Caroline Gluck

故郷に戻る人たちの晴れやかな表情。しかし、多くの場合は破壊された生活を再建するという新たな困難と対峙する

© UNHCR/Roger Arnold

幼子を抱え身の回りのわずかなものだけを持って逃れてきたロヒンギャ難民を安全な場所に誘導するUNHCR職員

9月～12月 「よかったと思えるのは、ここは安全だということです」（バングラデシュに逃れてきたロヒンギャ難民アブドゥル）

バングラデシュ

9月

その間わずか1か月。ロヒンギャ難民の数、50万人超に

ロヒンギャ難民のバングラデシュへの流入は続き、その数は同月末までに50万人を超えました。UNHCRは、仮設住居の差し迫った需要を受けて世界に支援を呼びかけ、住居用マテリアルだけを積んだ空輸を4度実施。足の踏み場もないほど混み合った難民居留地やキャンプで、人々に安全な避難場所を用意するために尽力しました。

避難してきた子どもの中には服さえ着ていない子どもも多くいた。写真は逃れてきたばかりのロヒンギャ難民の少年

エチオピア

10月

歴史的な変革。難民の住民登録が可能に

エチオピア政府とUNHCR、パートナー団体の協働により、史上初、同国で難民の住民登録が可能になりました。これは、人としての権利を享受しながら生きるという前提を奪われている難民の境遇に一石を投じる、歴史的な変革です。とりわけ出生登録は、子どもの国籍を証明し基本的人権を保障するために必要不可欠なものです。

南スーダン難民のアリアット。生後18日の息子はエチオピアで難民の子どもとして初めて出生証明書を手にした

ヨルダン

11月

クリーンエネルギーで長引く避難生活の質が向上

ヨルダン・ザータリキャンプに、世界の難民キャンプで最大級の太陽熱プラントを設置。同地に住まう8万人のシリア難民と地域コミュニティへの安定したエネルギー供給が可能になりました。二酸化炭素の排出量を大幅に削減し、一日に8～14時間の電力供給ができるようになり、人々の暮らしの質の改善に大きく貢献しています。

サッカーコート33個分のスペースに広がる4万個のソーラーパネルは、ザータリ難民キャンプの8万人の暮らしを支える

リビア・イタリア

12月

何か月もの苦難に終止符を打つ、画期的オペレーション

UNHCRとイタリア、リビア政府との協働により、エリトリア、エチオピア、ソマリア、イエメン出身の難民162人をリビアからイタリアへの直行便で救出。保護された人々は、アフリカを横断する避難の道のりで何か月もの監禁や密航業者からの虐待を経験したことから、身体的・精神的なケアを緊急に必要としている人たちでした。

救出されたグループには、紛争で夫を失ったシングルマザーや保護者のいない子ども、障がいを抱える人などがいた

UNHCRの援助活動の柱

2017年の難民の保護と仮設住居の支援

2017年、UNHCRは皆様のご支援により世界130か国で難民・国内避難民の保護・援助活動に従事しました。2017年の活動の中から、UNHCRの援助活動の柱である難民保護と仮設住居の支援にクローズアップしてご紹介します。

❶ 難民の保護

紛争や迫害により避難を強いられた人々を保護することは、UNHCRの活動の核となる任務です。

© UNHCR/Roger Arnold

2017年ロヒンギャ難民危機では、実際にどのような保護活動が行われたのか？

仮設住居や水、医療支援を難民の流入直後から提供

UNHCRは迅速に現地に駆け付け、命を守る緊急援助活動を開始しました。

「すべてを失いました。
まだないものもたくさんあります。
でも、よかったと思えるのは、
ここは安全だということです」(アブドゥル／52歳)

支援対象者すべての性別や年齢、保護上のニーズに関するデータを取得

飽和状態のキャンプで100名以上の職員を動員して各家庭を訪問し、それぞれが置かれた状況と仮設住居の場所、個人情報などを登録。これは、身ひとつで逃れてきた人々が真に必要としている支援を把握し届けるために不可欠であり、登録データは、支援を受ける際の本人確認にも使われます。

苦しい立場に追い込まれやすい子どもの保護

UNHCRは、バングラデシュに避難してきたロヒンギャ難民の半数以上を占める18歳未満の子どもたちの保護施策に力を入れています。心理的サポートの提供のほか、親を失った子どもたちへの支援も行っています。

© UNHCR/Roger Arnold

© UNHCR/Roger Arnold

個人登録カードを手にするロヒンギャ難民

© UNHCR/KittyMcKinsey

心理的サポートを通して、子どもたちは少しずつ笑顔を取り戻す

❷ 仮設住居の支援

逃れてきた人々に安全で、かつ厳しい気候やさらなる暴力から身を守る場所を用意すること。それは難民を保護するうえでの最優先事項です。

© UNHCR/Andrew McConnell

テントだけじゃない。2017年も行われた、仮設住居の支援の数々

バングラデシュ：ロヒンギャ難民危機に際した支援

危機発生から3か月の間に、UNHCR は 17 回にわたり、緊急援助物資の空輸を実施。積荷のテントや簡易テント用の素材を用い、逃れてきた人々に安全な居場所を迅速に用意しました。

© UNHCR/Roger Arnold

イラク：平和が戻った故郷に帰還する人への支援

武装組織からイラクの都市・ファルージャが解放され、避難していた人たちが戻った時に目にしたのは、変わり果てた故郷の姿でした。UNHCRは破壊された住居を再建・修復するサポートを約600家族に実施。

© UNHCR/Caroline Gluck

© UNHCR/Hannah Maule-ffinch

シリア周辺国：冬を前にした住居の防寒支援

シリアとその周辺国で、UNHCRは防寒支援の一環として仮設住居の防寒対策・補強・修理などを支援。また都市部の難民には、住む場所を追い出され凍死のリスクにさらされることのないよう、冬期の住居費の支援を実施しました。

「もしもUNHCRの防寒支援がなければ、
私たちはもっと厳しい冬を過ごしたことでしょう。
この小さなアマニを温めることさえできなかったはずです」
(仮設住居の防寒・補強キットを受けとったシリア難民アミラ)

UNHCRは2017年12月末までにシリアとその周辺国で310万人に防寒支援を届けました。

様々なご支援の形

企業・法人の皆様からお寄せいただいたご支援事例をご紹介します

グローバルパートナーとしてのご支援

IKEA Foundation

IKEA FOUNDATION

- 世界11か国で難民の教育·自立支援ならびにエネルギー分野での支援を実施
- ヨルダンで難民キャンプとして初の太陽光発電所を開設、難民と受入れコミュニティー双方の電力需要を支援
- シリア難民にマットレスのご寄付、等

株式会社ファーストリテイリング（ユニクロ、ジーユー）

- 2006年から「全商品リサイクル活動」を通じて回収した衣料約2,558万着（2017年8月末時点）を世界中の難民、避難民などに寄贈
- 日本、ドイツ、フランスにおけるユニクロ店舗で57名の難民を雇用（2017年10月時点）
- 従業員2名のUNHCRインド事務所への企業派遣プログラムを実施。難民問題の啓発·啓蒙を社内外で行う、等

企業の主力事業とUNHCRを結びつけるご支援

ジャパンフリトレー株式会社×Q-pot.

- ギャレット ポップコーン ショップス（R）とQ-pot.コラボ商品の売上の一部をご寄付

株式会社 明治

- 主力チョコレート商品の売上の一部を「アフリカの難民の子どもたちの栄養改善プログラム」にご寄付

パラカ株式会社

- 管理駐車場に設置された自販機売上の一部をご寄付

株式会社 LIXIL

- 「みんなにトイレをプロジェクト」を通じて難民キャンプに簡易トイレをご寄贈

株式会社 富士メガネ

- 難民の視力検査と眼鏡寄贈、全国店舗に募金箱を設置、等

ヤフー株式会社

- 「Yahoo!ネット募金」を通じたご寄付（緊急人道支援へのご寄付も含む）

従業員参加型のご支援

グーグル合同会社

- 従業員様の募金に本社が同額を加えたご寄付（マッチングギフト）および従業員様によるボランティアのご支援

信越化学工業株式会社

- 信越化学グループ従業員様の募金に本社が同額を加えてご寄付（マッチングギフト）

UNHCRグローバル・シェルター・キャンペーンへのご支援

- **株式会社上田ホールディングス（上田グループ）創業者 上田 正次 様**
- **真如苑**
- **ステラケミファ株式会社**
- **東京マラソン2017チャリティ**
  （国連UNHCR協会は、東京マラソン2017チャリティの寄付先団体です）
- **株式会社ピープルフォーカス・コンサルティング**

© UNHCR/Roger Arnold

緊急人道援助へのご支援

- **アジアパシフィックダイヤモンドカップゴルフ**
- **イーグル工業株式会社**
- **株式会社ブロッコリー**
- **株式会社ワカト**
- **国際ソロプチミストアメリカ日本5リジョン**
- **浄土宗なむちゃんエイド**
- **創価学会**
- **立正佼成会一食平和基金**

イベントを通じたご支援

J.S.Foundation

- 「浜田省吾さんチャリティコンサート」を通じた「グローバル・シェルター・キャンペーン」および「アジアの出生登録支援」へのご寄付

●チャリティマラソン

株式会社アトレ
花王株式会社／花王ハートポケット倶楽部
ソニー株式会社
パラカ株式会社
三菱電機トレーディング株式会社
医療法人社団明衣会、等

●第12回国連UNHCR難民映画祭

［特別協賛］キヤノン株式会社
株式会社ユニクロ
［協賛］ソニー株式会社
トヨタ自動車株式会社
日本映像翻訳アカデミー株式会社
バカラ パシフィック株式会社
外国法共同事業法律事務所リンクレーターズ

「国連難民支援キャンペーン」を通じた全国の皆様からのご支援に心より御礼申し上げます

© 国連UNHCR協会

全国5拠点を中心に展開している国連難民支援キャンペーンでは、街頭や施設などで「毎月倶楽部」（毎月の継続的な寄付プログラム）への参加をお願いする活動を行っております。キャンペーン会場でお会いした皆様お一人おひとりが、難民の置かれている苛酷な状況を説明するスタッフの話に耳を傾けてくださり、多くの方が毎月倶楽部での継続的なご支援を始めてくださったことに心より御礼申し上げます。私たちのこの活動は、全国で多くの企業・自治体の皆様に無償でキャンペーン会場をご提供いただいていることにより継続することができ、難民支援の輪は今日も広がり続けております。今後も全国での「国連難民支援キャンペーン」に精力的に取り組んでまいります。皆様のご近所でお見かけの際は、ぜひお気軽にお立ち寄りください。

© 国連UNHCR協会

2017年「国連難民支援キャンペーン」

全国5拠点を中心に実施

札幌、東京、名古屋、大阪、福岡

75名 全国でキャンペーンに携わる協会所属キャンペーンスタッフ（2017年12月末現在）

4786回

企業や自治体の皆様のご支援により開催したキャンペーン実施回数

© 国連UNHCR協会

世界各地で行われています！

© UNHCR

© Asociacion España con ACNUR

© UNHCR

「国連難民支援キャンペーン」は、スペイン、韓国、ドイツ、オーストラリア、イタリア、オランダ、スウェーデン、メキシコ、タイなど、世界15か国で展開しています。

▼ご協力をいただいている企業様の声

店舗として難民支援に協力でき、よかったと思います。できる限り長く続けていきたいと思います。

事前の告知から当日の活動まで、大変丁寧にご対応いただきました。

「国連難民支援キャンペーン」が、お客様の施設への評価にもつながっているように思います。

▼私たち、だから支援を始めました。

継続的なご支援「毎月倶楽部」にご参加いただいた方の声、そこにある願い、温かい思いをご紹介します

6年間子育てをしていく中で、人に対する意識が変わりつつあります。自分の子ども以外にも幸せになってほしい！ そのために自分は何をすべきか、何ができるのか……。現状では、実際に手を貸すなどのアクションはできないので、せめて持続的な援助で世界の誰かの助けになりたいと思います。
（30代・主婦）

長い人生の中で、若い頃は会社員でしたが、結婚し、主婦となり、子どもに恵まれました。そのことにとても感謝をしています。孫も2人生まれ、同じ様な年頃のお子さんの成長に、ぜひ少しでもお手伝いできたらと思い、少額ですが支援を始めました。
（60代・主婦）

テレビの報道を通してしか難民について知らなかった私ですが、今回話をしてくださったおかげで、今まで知らなかったことを知ることができました。少額しか支援できないけれど、いずれこの世界から、戦争がなくなることを、難民がいなくなることを願って、長く長く募金を続けていきます。
（20代・会社員）

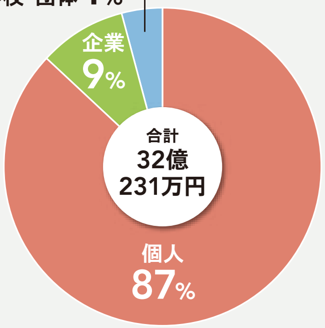
世界に多くの難民がいる現実を知り、スタッフさんの熱意を感じ、参加させていただきたいと思いました。こういう場を、多くの企業さんに無償で提供してもらえる社会になってほしいです。
（40代・会社員）

日本で平和な毎日に慣れていると、遠くでたくさんの苦しい思いをしている人の気持ちを時に忘れそうになります。同じ時代に同じ世界に生きている人として、何かできればと思い参加させていただきました。遠い誰かが幸せになってくれることを祈りつつ。
（30代・会社員）

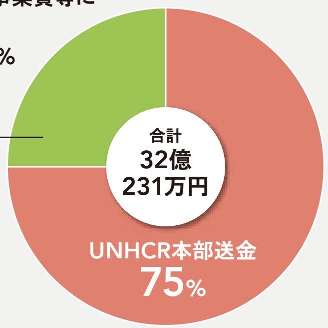
支援に興味をもっていたものの、なかなかチャンスがなく実行に移せておりませんでしたが、今回店頭でのキャンペーンのおかげで支援に携わることができ、うれしく思っております。一緒にいた子どもたちに難民について説明していただき、ありがとうございました。
（40代・会社員）

2017年も温かいご支援をお寄せいただき、ありがとうございます
皆様からお預かりしたUNHCRへのご寄付の収支をご報告いたします

国連UNHCR協会 寄付金収入



国連UNHCR協会 寄付金支出

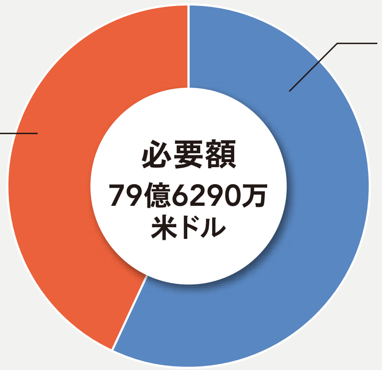


2017年、国連UNHCR協会にお寄せいただいたご寄付は総額32億231万円に達しました。お預かりした寄付金のうち75%にあたる24億181万円をUNHCR本部に送金させていただきました*。

*国連UNHCR協会では、UNHCR本部との取り決めに従い、お寄せいただいた寄付金の上限25%までを、協会の活動および運営のための資金に充当させていただいております。
国連UNHCR協会の総収入・総支出、費用詳細につきましては、次ページに掲載の「2017年度 会計報告」をご覧ください。

資金が大幅に不足しています

2017年、世界各地の紛争や迫害により、避難を強いられた人が6560万人を超える中、UNHCRが全世界での援助活動のために必要としていた資金79億6290万米ドルに対し、実際に調達できた資金は45億1170万米ドルと約57%にとどまり、大幅な資金不足となっています。

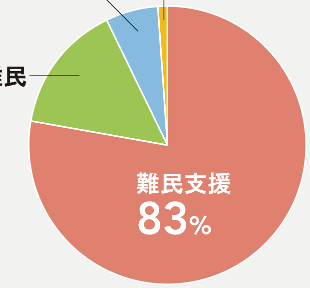


出典：Update on budgets and funding for 2017 and 2018 EC/69/SC/CRP.5

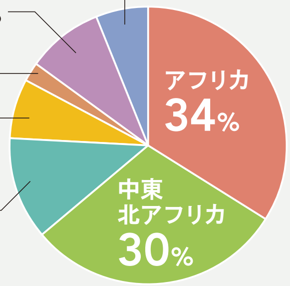
2017年UNHCRプログラム活動費分配額割合

皆様からのご寄付は、UNHCRのプログラムに下記のとおり配分されています。

支援目的別



地域別



*グローバル・プログラム
UNHCRが全地域で進めている分野別重点テーマを推進するプログラム。
出典：Update on budgets and funding for 2017 and 2018 EC/69/SC/CRP.5

皆様からのご寄付により、UNHCRは次のような緊急援助物資を供給することができました（日本を含む全世界からの寄付金による支援の一例です）

- 毛布 2,977,213枚
- 水汲み容器 1,165,095個
- バケツ 267,872個
- 調理器具セット 841,839家族分
- 家族用テント 28,560張
- 就寝用マット 2,438,895枚
- ビニールシート 1,574,570枚
- 蚊帳 594,671張
- ソーラーランタン 812,149個

国連UNHCR協会2017年度 会計報告

活動計算書

（単位：円）
自 2017年1月1日　至2017年12月31日

経常収益

【受取会費】	正会員受取会費	800,000
【受取寄付金】	UNHCR寄付金	3,202,265,774
	現物供与	53,854
【受取助成金】	受取助成金＊	586,211,315
【その他収益】	受取利息	182,372
	為替差益	245,004
経常収益　計		**3,789,758,319**

経常費用

【事業費】人件費		436,904,684
その他経費	UNHCR支援金	2,401,814,899
	業務委託費（事業）	283,189,570
	諸謝金（事業）	4,641,819
	制作費（事業）	120,433,438
	印刷費（事業）	2,028,129
	資料費（事業）	7,250,960
	会議費（事業）	1,156,000
	広告費（事業）	140,684,865
	旅費交通費（事業）	24,149,820
	通信運搬費（事業）	91,181,145
	消耗品費（事業）	5,687,288
	会場費（事業）	3,506,770
	修繕維持費（事業）	400,526
	水道光熱費（事業）	831,371
	賃借料（事業）	11,119,656
	減価償却費（事業）	10,793,846
	保険料（事業）	42,470
	諸会費（事業）	62,596
	研修費（事業）	410,072
	支払手数料（事業）	63,071,359
	雑費（事業）	4,860
	その他経費 計	**3,172,461,459**
事業費 計		**3,609,366,143**

【管理費】人件費		71,582,820
その他経費	印刷費（管理）	214,876
	会議費（管理）	109,897
	旅費交通費（管理）	161,288
	通信運搬費（管理）	10,520,428
	消耗品費（管理）	8,755,011
	修繕維持費（管理）	5,800,504
	水道光熱費（管理）	792,967
	賃借料（管理）	14,510,004
	接待交際費（管理）	2,786
	減価償却費（管理）	14,544,808
	保険料（管理）	685,440
	業務委託費（管理）	22,536,956
	諸会費（管理）	79,800
	諸謝金（管理）	2,701,936
	租税公課（管理）	280,370
	研修費（管理）	86,740
	支払手数料（管理）	1,411,968
	その他経費 計	**83,195,779**
管理費 計		**154,778,599**
経常費用 計		**3,764,144,742**
当期経常増減額		**25,613,577**

経常外費用

固定資産除却損	**6,468,502**
経常外費用 計	**6,468,502**
当期正味財産増減額	**19,145,075**
前期繰越正味財産額	**852,178,673**
次期繰越正味財産額	**871,323,748**

＊受取助成金：UNHCR本部からの助成金

貸借対照表

（単位：円）
2017年12月31日 現在

資産の部

流動資産	現金預金	753,324,802
	未収金	1,607,438
	貯蔵品	149,000
	前渡金	1,618,950
流動資産 計		**756,700,190**
固定資産		
有形固定資産	建物	1,412,253
	什器　備品	5,350,466
	有形固定資産 計	**6,762,719**
無形固定資産	ソフトウェア	62,623,650
	ソフトウェア仮勘定	21,178,800
	商標権	62,686
	無形固定資産 計	**83,865,136**
投資その他の資産	敷金	8,365,692
	長期性預金	310,000,000
	ソフトウェア開発特定資産	70,000,000
	退職給付引当預金	16,078,200
	投資その他の資産 計	**404,443,892**
固定資産 計		**495,071,747**
資産合計		**1,251,771,937**

負債・正味財産の部

流動負債	未払金	352,306,878
	前受金	3,332,028
	預り金	7,294,583
流動負債 計		**362,933,489**
固定負債	退職給付引当金	17,514,700
固定負債 計		**17,514,700**
負債合計		**380,448,189**

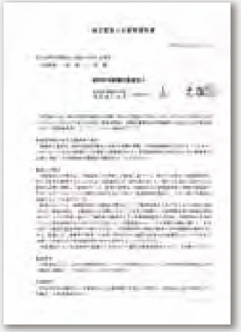
正味財産の部

正味財産	前期繰越正味財産額	852,178,673
	当期正味財産増減額	19,145,075
正味財産 計		**871,323,748**
正味財産合計		**871,323,748**
負債および正味財産合計		**1,251,771,937**

ここに記載した活動計算書・貸借対照表は、NPO法人会計基準による2017年度国連UNHCR協会活動計算書・貸借対照表をまとめたものです。全文は、国連UNHCR協会ウェブサイトからダウンロードいただけます。

受取助成金について

国連UNHCR協会はUNHCRの日本における公式支援窓口として、日本の皆様に難民問題を知っていただき、UNHCRへのご支援の輪を広げるために日々活動しています。現在はその活動を強化するために、UNHCR本部の方針に沿って助成金を受け取り、将来的により多くの支援を難民に届けられるよう有効活用しています。日本以外でUNHCR本部助成金を提供されている公式支援窓口は、スペイン、オーストラリア、ドイツ、米国、スウェーデンの各協会です。この助成金の主要な財源は各国政府拠出金であり、UNHCR本部や各国政府の承認を受けています。

リザーブポリシー（正味財産についての方針）

国連UNHCR協会は、正味財産について、年間経常費用の4か月分相当を目安として保持することが適正と考えます。財務健全性の確保および将来の事業拡大に向けた基盤整備のためです。